

平川淳一・林 光俊・仙波浩幸・上菌紗映(編集)

精神科・身体合併症のリハビリテーション 総合的な治療計画から実践まで

評者 半田一登

(公益社団法人日本理学療法士協会会長)



この書を読んで、思い出したことがある。今から5、6年前に、日本精神科病院協会の大幹部から呼ばれて「精神科領域での身体合併症に対して理学療法士が積極的にかかわる必要がある」との指摘を受けたことである。そのころは、精神科領域への理学療法士のかかわりは全国的にも皆無に近く、その大幹部の言葉に圧倒されるのみであった。以降、精神科領域に関する理学療法については、大きな関心をもって論文等を読むようになった。単に身体合併症に対する運動療法の効果ではなく、国外では精神科領域での運動療法の効果が示された文献が目立ってきている。

そのような背景を持ちながらこの書を読ませていただいた。そのなかで、第1章の「精神疾患治療と身体的リハビリテーションのコラボレーションをめざして」は、精神疾患領域での経験が乏しい理学療法士にとっては非常に示唆的である。また、第2章の「精神科における身体合併症のリハビリテーション」では、他科との関係が克明に記され実用性が高い。特にリハビリテーション科に関する記述は必読である。また理学療法士の項では、この領域での理学療法的重要性と課題が克明に記されている。第3章では精神症状が克明

にされており、この領域の知識が乏しい理学療法士にとっては学習するうえでの基本的知識である。

そして、第4章から第7章まで続くが、どの項についても非常に臨床的であり、精神科領域での経験の乏しい理学療法士にとっては貴重な存在である。

今日、理学療法士の身体領域に関する臨床活動のなかにも、高齢者の認知症や、労働者や小児の精神心理面等の問題を呈する患者が急増している。このような困難事例を、単に身体症状に付随的な精神科領域の問題としてやり過ごすのではなく、身体領域の理学療法をより効果的に遂行するための必要条件と受け止めるべきである。

この書を精神科領域の理学療法士等だけのものとして、身体領域の理学療法士等が広く関心を持ち、身体的リハビリテーションと精神疾患治療とのコラボレーションにまで発展する起爆剤となることを期待する。

● B5判, 236頁, 2色刷

定価: 3,800円+税

協同医書出版社刊, 2015年